

目標を高く持ち謙虚に学ぶ

三菱レイヨン株式会社
中央技術研究所 機能材料研究グループ

井川 雅 資

私は2009年3月に工学研究科応用化学専攻を修了し、三菱レイヨンに就職しました。新生活のスタートに胸を躍らせたのも束の間、新しい環境に右往左往しているうちにあっという間に時間が過ぎ、気がつけば二年目を迎えています。周囲の厚いサポートのおかげでようやく仕事に慣れてきたと実感し始めていた折、恩師を通じて本稿のお話を頂きました。これまでを振り返り、気を引き締める機会と捉え、今後の抱負を述べさせていただきます。

抱負を述べるに当たって、まずは会社の概要、所属部署の様子、そして私の業務内容について述べさせていただきます。大まかに申しますと三菱レイヨンは産業用の素材メーカーです。社名の「レイヨン」からもわかって頂けるかと思いますが、繊維会社として端を発しています。その後、繊維不況などを経験し事業の構造改革を経て、現在では化成品や樹脂事業が大きなウエイトを占めております。また、将来を支える事業として、水処理膜や炭素繊維も扱っています。これらの事業を軸に、「Best Quality for a Better Life」という経営理念のもと、高品質な製品を世に提供するために取り組んでいます。今年度からは三菱ケミカルホールディングスグループの一員として新たな体制で臨むことになりました。

所属部署は当社の要素技術である重合技術や賦形技術、光学部材などを検討・深耕し、事業の“種”をつくるグループです。そのため、対象としているテーマも多岐に渡ります。私の担当業務は高分子賦形技術に関する基礎検討です。学生時代は有機金属化学を専攻しておりましたが、「様々な領域のテーマを経験して、技術的な問題に多様なアプローチができる人材になりたい」という気持ちが根底にあり、入社時の配属希望ヒヤリングにて「異分野の研究テーマにも挑戦してみたい」と回答しました。その結果、専攻と全く関係ない現在の業務に携わる機会を頂きました。

当初は、「異分野のテーマでも、研究の進め方の根

本は変わらないだろうから、なんとかなるに違いない」と、正直タカをくくっておりました。しかし現実はその甘いものではなく、実験環境の整備や評価方法の確立など実験以前の問題で頭を抱えることも多々あり、文字通り「右も左もわからない」という状態がしばらく続きました。しかしそんな状態だからこそ、学んだ事や気づいた事は記憶に残りやすいもので、今後につながる貴重な経験を積んでいると実感しています。懐の深い上司や先輩社員に恵まれたこともあり、今では開き直って楽しみながら取り組むことができています。現行業務では、社内の方々の部署を横断して仕事をする機会も多く、基礎研究に携わりながらも商品開発の視点や製造現場の視点、様々な顧客ニーズにも触れることができます。自身の業務遂行上の知識や技能取得はもちろんのこと、現在の恵まれた環境をもっと活かして幅広い知識を身につけていきたいものです。

余談になりますが、飲み会の中では様々な部署の方々とコミュニケーションをとる機会があります。しかし私が微量のお酒で酔っ払ってしまうため、残念ながら有効活用できていません。どうにかして飲み会での体力アップを図りたいところです。ずっと言い続けたまま定年を迎える予感もしますが。

以上、現在の私をとりまく状況を説明させて頂きました。このように振り返ることで、一刻も早く一人前にならなければと改めて感じます。今後の抱負としては「目標を高く持ち、達成に向けて謙虚に取り組む」を掲げたいと思います。目標を高く持つことで、向上心を常に高く維持することができます。また、謙虚に取り組むことで、その都度身の丈にあった課題を設定し、着実に成長していけると感じるからです。まずは一人前に、そしていずれは「多様な視点から問題を分析して解決法を考えられる人材」になれるよう一歩一歩精進していく所存です。

(応化 平成19年卒 21年前期)